

令和3年度 加藤学園暁秀高等学校・中学校 学校評価(自己評価)

校訓	至誠・創造・奉仕
教育の柱	人間教育・大学進学教育・国際理解教育
教育の目標	校訓のもと、豊かな人間性を持ち、地域社会や国際社会で活躍できる人材の育成を教育の目標としています。
本校の特徴	生徒個々に応じた細やかな進路指導や少人数での授業及び講習を通して、国内・外の難関大学を含めた大学への進学希望を叶えることを目指します。また、日本で初めてIB(バカロレア機構)の認定校となり、バイリンガルコースでは中学・高校ともに英語・国語・体育以外の教科を英語で行い、アクティブラーニングの先駆校となっています。
概況	静岡県東部地区においての人口が年々減少しており、募集は厳しい時代になっている。暁秀中高では、生徒個々の進路希望を叶えられるように細やかな指導を行っており、募集活動を通じてその指導内容や実績を様々な方法でアピールをしている。また、新型コロナウイルスによる9月の緊急事態宣言期間でもオンライン授業で学習を進めることができ、昨年度に行えなかった暁秀祭や修学旅行が感染対策を徹底した上で無事に実施できたことが大変良かった。

自己評価
(学校全体に対する評価)

評価項目	活動項目(指導項目)	活動状況	達成評価 5段階	良かった点や反省、次年度以降の方策など
授業等について	ア 教員の資質向上への取組	他教科の授業についても見学を行い、各々研鑽をして授業の改善へと繋げる。	3.1	・教員全体として、オンライン授業についてのスキルが向上しました。高校は主にzoom、中学は主にmeetを用いた遠隔授業ができました。
	イ 説明・板書・発問の方法や実践	校内での研究授業・公開授業を通じて教科別に研修をし、外部での研修会等に参加している。	3.2	・感染の収束が見えてこない一年間であり、教員の研修計画も昨年同様予定通り行えませんでした。オンライン授業で使う教材の作成やパソコンのソフトを用いた授業展開の工夫が見られました。
	ウ グループ学習・チームティーチング	生徒自身が考え、発言できる授業への取り組み。感染対策を優先しての実行。	3.7	・高校でのポートフォリオ、中学全学年でキャリアパスポートが2年目を迎えました。コロナ下ではありますが授業内のグループワークはできていました。
	エ 学習に適した環境・学級経営	習熟度別授業を多く取り入れ、生徒個々の進路や学習状況に応じ、少人数の授業も多く展開している。ソーシャルディスタンス。	3.9	・少人数、習熟度授業は継続して実施しました。生徒と教員との距離は近く、質問する生徒が多く見られました。高3の個別演習も感染対策を考慮しメールでのやりとりなど工夫して実施しました。
	オ コンピュータや情報を活用した授業	情報機器等の授業への活用を実践し、教材等の研究を進めている。オンライン授業では各家庭の情報環境が必須である。	3.7	・タブレットやパソコンを使った授業は増加しました。保管場所や破損の心配もありましたが、生徒に1台ずつパソコンを持たせ授業で活用しました。現在のWi-fi環境は随時工事を行い、ストレス無く利用できるようになりました。
教育課程	ア 教育課程の編成・実施についての教員間理解	中学と高校の関連を考えた授業。各コースの到達目的に沿った教育課程の精査と改善。	3.6	・次年度、高校の教育課程が変更になるため、コース別でのカリキュラムの確認を行いました。新教育課程での「探究」をどのように進めていくのか。また高校に観点別を導入することにより評価をどのようにするのかを検討しております。
	イ 授業時数の確保・実践	講習や学習合宿および放課後の講習を通じて、授業内容を補完し、実践力をつける。荒天による休校時の授業確保。	3.7	・放課後の講習の内容、実施形態についての見直しは継続し、教科ごとの必要に応じて柔軟に対応しました。また、実時間数、短縮授業による総時間数の減少があり、次年度以降、減少分を講習等でしっかりと補っていきます。
	ウ グループ学習・チームティーチング	観点別評価の評価方法については、各教師が取り組む。多面的に生徒の力を測り、考える力を育む。	3.2	・来年度より、従来の4観点から3観点へと変更になり、高校1年生から新規観点別評価が導入されます。各教科は観点別評価基準を設けて、個々の表現力や積極的な態度などを評価いたします。
	エ 図書館の活用、読書活動の推進	中学・高校ともに朝読書の時間を毎日10分間設けている。また、読書カードを図書委員が中心となって集計し、クラスや個人で競い、年度末に表彰している。	3.2	・毎朝の読書の時間を設けたり、貸出本数ランキング、読書カードで生徒たちが読書するきっかけを多く作っています。
	オ 体験活動の実施状況	中学では合宿を通じて富士山についての理解を深め、自然体験を通して環境について考察する。高校では進学に繋げていくために職場探訪を例年は行うが、 本年度は未実施 。	3.2	・体験学習については、コロナ下では比較的その機会は少ないですが、高校は進路や大学に関わることを学び、中学は地域や世界の環境、個人と社会との関わり、またSDGsについて学んでいます。
	カ 部活動の実施体制・状況	遠距離通学者もおり、中学・高校ともに部活動は希望参加。文化部、運動部ともに活動場所や練習時間が十分とれないが、工夫をして充実した活動をしている。	3.4	・文科省からの感染対策や実施のガイドラインに沿ってほぼ全ての部活動が計画通りに活動ができていました。また、教師と生徒との信頼関係を維持し、生徒達の体と心の成長に大いに役立っています。

進路指導	ア キャリア教育について	進学校なので殆どが大学への進学を希望している。将来の夢から逆算して、文理・国私選択や大学・学部学科選別に繋げるように講演会やオンラインでの大学説明等指導を行っている。	3.7	・本校はほぼ100%大学進学を前提としてカリキュラムを組んでいます。生徒達が大学進学の意味を理解し、必要な学力をつけつつ、それが各自の生涯の仕事に繋るように取り組んでいます。
	イ 職業観の育成、地域との連携	例年、卒業生や在校生の保護者の方で、地域で仕事をされている方をお願いをして、仕事の内容や仕事に就くまでのエピソードを話していただくが本年度についても未実施。	3.1	・学習への意欲を高め、地域の特色を学び、将来、地域に貢献できる人材の育成を目指しています。生徒は、オンラインでの講座やパソコンを用いた調べ学習によって、地域や環境についての知識や理解を深めました。
	ウ 大学進学指導について	関東圏を中心として私立大学の方に、オンラインで、一人につき2つの大学の話が聞けるように説明会を開いた。	4.0	昨年から共通テストになり、今年度の試験はさらに難化しました。また、昨年と同様に、推薦やAOの入試希望者が多く、学力のみでは入試に対応できなくなっています。その中でも教員が個々の生徒に寄り添っての進路の指導をいたしました。
生活指導	ア 教職員全体の意識	自分のクラスだけではなく、学年団全体で生徒を指導していくことを心掛け、指導する人に負担が集中しないように心掛ける。	3.5	・学年を越えて情報を共有したり、問題行動が大きくなる前に迅速な対応を心掛け、些細なことでも担任と保護者が連絡を取るようになっています。
	イ 問題行動への対応	報告、連絡、相談をしっかりと行い、問題を共有し担当教員だけが問題を抱え込まない。問題行動には処罰ではなく指導という視点で保護者に対応する。	3.8	・交通安全、非行防止、携帯マナーの各講座を年度の早い時期に行いました。自宅での時間の増加とともに、生徒に関して、ネットの危険度や、不登校などの心配も増えています。
	ウ スクールカウンセラー等教育相談の現況	保健室の教員を中心として生徒の相談にのっている。また、スクールカウンセラーの先生を2人お願いしている。	4.3	カウンセラーは2人配置しています。生徒や保護者になるべく気軽に利用できるように養護教員や担任等が呼びかけて、多くの生徒保護者が利用しました。
	エ 基本的な生活習慣を身につけさせる工夫	担任を中心として、生徒の面談、長期休暇前の三者面談、放課後の指導や部活顧問との連携、時に応じて家庭訪問を行う。	3.8	・部活動や生徒会の活動を通じて、挨拶ができる生徒の育成をしています。また、保護者にも協力を得て、検温チェック、マスクの着用など感染の拡大防止ができています。
保健管理	ア 感染症予防に対する取組	新型コロナ対策のため、検温のチェック、アルコール消毒、手指用アルコールの準備を毎日行っている。換気を促し教室の空気の入換えにも注意を払う。	4.3	・新型コロナに関しては、校内での生徒同士の感染はしっかりと抑えることができました。これからもコロナウイルスに対しての警戒は緩めることなく取り組みます。
	イ 薬物乱用に対する意識向上	年間計画の中に薬学講座を設けて、全学年の生徒が薬物に対しての最新の知識をつけ、危険薬物についての認識を深めている。昨年度はは開講できなかったが、今年度は開講した。	3.9	今年度は薬学講座を実施することができました。生徒達は、薬剤師の話から、薬物犯罪の実状と薬物の使用の怖さを学ぶことができました。
	ウ 健康診断・健康観察・疾病予防	既往症についての把握、合宿などでの食物アレルギーについての調査など本年度は。健康診断は夏までには終了。歯科・耳鼻科眼科・内科・レントゲン・心電図等々	4.3	・昨年度は検査時期が遅くまでずれ込みましたが、今年度は予定通りに検診を行えました。既往症を持っている生徒達に対しても個々に対応ができました。
安全面	ア 施設管理や点検	多くの職員の目で危険と思われるところを指摘してもらい。すぐに対処している。施設の補修も行っている。	3.7	・随時、水質や配管等の点検を行っています。また、施設の中では3階のトイレのリニューアルを行い、今回で校舎内のトイレはすべて改修が終了しました。
	イ 緊急時の対応(悪天候等)	遠距離通学者も多く、荒天が予想される場合は各家庭で安全を最優先して登校の判断をしていただいている。臨時休校の際には予備日に授業を確保している。	3.9	・今年度は1日、台風により臨時休校を行いました。また、降雪時などは地域によつての差もあり、登校の判断は各家庭にお願いしました。夏には、防災倉庫の点検を教員と生徒で行い、災害時に必要な物資の確認をしています。
保護者との連携	ア 保護者との連携と生徒のボランティア精神を育てる	昨年度に続き、日本国内の感染状況を鑑みバザーの開催は見送った。感染収束後の新しい形のバザーを模索する一年となった。	2.9	・本年度も、感染のリスクを考えてバザーは中止となりました。来年度以降の新しいバザーを模索しています。バザーでは生徒のボランティア精神を育みつつ、収益金の一部を福祉協議会に寄付をしたり、本校の施設の拡充に当てています。
	イ 地区会活動	各地区が主体となり、保護者、生徒、教員が協力してボランティア活動を行う。例年行っていた地区会、ボランティアなどのイベントは中止した。	2.6	・例年、各地区毎に地域での貢献を考えつつ、清掃活動などを行いますが、今年度もコロナの影響により活動ができませんでした。従来は各地区での保護者の交流を深め、特に遠方通学者の保護者同士の情報の交換の場となっていました。
	ウ 学校便り・学年通信・ホームページの活用	学年便りを月毎に発行し、行事予定や部活動の結果を載せている。ホームページにも生徒の活動や行事などを掲載し、緊急メールを活用して保護者へのお知らせなどを配信している。	3.7	・今年度も積極的にホームページをリニューアルしたりブログを配信し、行事等の情報が多くアップされました。また、絆ネットでは、緊急時のメールやオンライン保護者会の案内等を配信しました。
保護者の満足度	ア 授業に対する満足度・評価	日頃の授業、講習、質問に対する教師の指導等の保護者の満足度	4.2	年度内のオンライン授業、曜日別登校などコロナ対策と授業を進めることのバランスについては概ね良い評価をいただきましたが、授業時数の確保を心配する御意見もありました。施設については校舎の古さを指摘いただく一方で学校を訪れた際に掃除がしっかりとできていたと評価する方もいました。行事に関しては、今年度はバザーを含めて多くの行事が中止されましたが、中高ともに修学旅行が実施できたことについては高評価をいただきました。
	イ 施設や環境等に対する満足度・評価	校舎内外、教室、運動施設、移動方法等の保護者の満足度	3.3	
	ウ 行事に対する満足度・評価	遠足、合宿、修学旅行(延期)、学校祭(中止)に対する満足度	3.4	